

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.55 September, 2009

## 目次

<b>企画案内</b> .....	<b>1</b>
保物セミナー2009のご案内 .....	1
日本放射線安全管理学会 第8回学術大会 .....	2
シンポジウム「UNSCEARの最新動向と放射線防護研究の展望」 .....	2
<b>理事会報告</b> .....	<b>3</b>
平成21年度 第3回 理事会 議事録 .....	3
<b>企画委員会報告</b> .....	<b>4</b>
平成21年度 第2回 企画委員会 議事録 .....	4
<b>編集委員会報告</b> .....	<b>6</b>
平成21年度 第2回 編集委員会 議事録 .....	6
<b>国際対応委員会報告</b> .....	<b>7</b>
平成21年度 第1回 国際対応委員会 議事録 .....	7
<b>放射線防護標準化委員会</b> .....	<b>8</b>
平成21年度 第7回 放射線防護標準化委員会 議事録 .....	8
第26回幹事会 .....	9
第27回幹事会 .....	10
第28回幹事会 .....	11
<b>若手研究会</b> .....	<b>11</b>
活動報告 .....	11
<b>学友会</b> .....	<b>14</b>
活動報告 .....	14
<b>専門研究会報告</b> .....	<b>15</b>
医療放射線リスク .....	15
放射線安全新パラダイム .....	15
新規専門研究会のお知らせ .....	15
<b>学会掲示板</b> .....	<b>15</b>
AOCR-3からのお知らせ .....	15
第1回 自然放射線被ばく研究ネットワークの構築に関する国際会合開催のお知らせ .....	16
臨時委員会「放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討委員会」設置のお知らせ .....	16
インターネットグループの活動 .....	17
メーリングリストへのアドレス登録のお願い .....	17
メーリングリスト登録者へのお願い .....	17
学会刊行物の案内 .....	17

## 企画案内

### 保物セミナー2009のご案内

2009年の保物セミナーが10月29日(木)と30日(金)の2日間にわたり、大阪科学技術センター(大阪市西区)で開催されます(参加費6,000円。事前申し込みの場合は5,000円)。

主なテーマを以下に示します。保健物理学会企画行事としては、今年は医療被ばくを取り上げ、皆様にCT検査な

---

---

どに伴う医療被ばくの現状, 医療費被ばくに関する疫学調査の動向とそこに示されているリスクについて, さらには, 医療被ばくの正当化に関する WHO ワークショップの議論の様子などをお伝えしたいと考えております。

- ・ テーマ1: 電磁界の健康影響について
- ・ テーマ2: 最新機器の開発動向
- ・ 特別講演1: 安全規制状況と規制の動向について
- ・ テーマ3: 保健物理のこれから
- ・ 特別講演2: 原子力安全委員会の活動について—放射線関連—
- ・ テーマ4: 医療被ばくに注目して(保健物理学会企画行事)

例年通りに, セミナー初日の夕方(17:30 から)には, ボイリング・ディスカッション(参加費 6,000 円)も企画されています。

詳細なプログラムと事前申し込みの方法などについては下記 URL をご参照下さい。

<http://www.esi.or.jp/news/pdf/seminar2009program.pdf>

皆様, 奮っての参加をお待ちしております。

(名古屋大 太田 勝正)

### 日本放射線安全管理学会 第8回学術大会

会 期: 平成21年12月2日(水)~4日(金)

会 場: 長崎大学医学部記念講堂および良順会館

〒852-8523 長崎市坂本1-12-6

主 催: 日本放射線安全管理学会

共 催: 日本保健物理学会, 長崎大学先端生命科学支援センター

大会長: 松田 尚樹(長崎大学教授)

事務局: 長崎大学先端生命科学支援センター

アイソトープ実験施設内

(TEL)095-819-7150, (FAX)095-819-7153

(e-mail)jrsm2009@ml.nagasaki-u.ac.jp

詳細については, 下記HPをご覧ください。

<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/nuric/nagasaki2009/outline.html>

(中電 山崎 直)

### シンポジウム「UNSCEARの最新動向と放射線防護研究の展望」

日時: 平成22年1月30日(土) 13:30~17:00

場所: 東京大学本郷キャンパス工学部11号館1階講堂

主催: 原子力安全委員会

協力: 日本保健物理学会

後援: 原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR), 放射線医学総合研究所 他

[座長] 下 道國

[挨拶] 久住 静代(原子力安全委員)

1. UNSCEARの活動の現状と今後  
米倉 義晴(放射線医学総合研究所)
2. がん, 非がん影響の疫学研究  
児玉 和紀(放射線影響研究所)
3. ラドン 線源から健康影響まで  
吉永 信治(放射線医学総合研究所)
4. 公衆被ばくおよび放射線事故からの被ばくに関する最新の検討  
中野 政尚(日本原子力研究開発機構)

[休憩]

[座長] 金子 正人

- 
- 
5. 職業被ばくに関する最近の検討  
吉澤 道夫(日本原子力研究開発機構)
  6. 医療放射線被ばくに関する最新の検討  
鈴木 元 (国際医療福祉大学)
  7. チェルノブイリ事故による健康影響に関する最新の検討  
丹羽 太貴(放射線医学総合研究所)
  8. 人以外の生物へ放射線の影響に関する最新の検討  
酒井 一夫(放射線医学総合研究所)
  9. 放射線防護研究の今後の展望(総合討論)  
司会 酒井 一夫(放射線医学総合研究所)  
パネリスト 演者全員  
[挨拶] 金子 正人(日本保健物理学会長)

本シンポジウムは、入場無料で、どなたでも参加いただけます。ただし配布資料の準備のために、参加ご希望の方は、出来るだけ下記連絡先にご氏名、ご所属をお知らせ下さい。)

連絡先：放射線医学総合研究所放射線防護研究センター規制科学総合研究グループ  
電話：043-206-3099  
FAX：043-251-6089  
E-mail：UNSCEAR@nirs.go.jp

(原子力機構 百瀬 琢磨)

## 理事会報告

### 平成21年度 第3回 理事会 議事録

1. 日時：平成21年6月2日(火) 17:00-19:00
2. 場所：近畿大学原子力研究所「会議・演習室」
3. 出席者  
理事：金子(会長), 近江, 太田, 小佐古, 杉浦, 鈴木, 服部, 村山, 百瀬, 安岡, 猪俣  
監事：村上  
参与：荻野, 小池, 鈴木  
委任出席：酒井, 林
4. 議事概要
  - (1) 総会・学会賞授与式の進行等についてについて報告された。
  - (2) 学会名称の登録査定終了についての報告及び商標登録の実施についての提案され、商標登録を実施することが承認された。
  - (3) IRPA からのシーベルト賞の推薦依頼, BSS Draft2.0 へのコメント依頼, IRPA の新ページ「Association Society News」の活用依頼, 及び IRPA への新理事会メンバーの連絡について報告された。
  - (4) 総会案内状の合理化検討の開始について報告され、今後法人化検討の枠組みの一環として近江理事が中心となる WG を立上げて検討することとした。検討に当たっては、個人情報取り扱い、選挙方法についても配慮する。
  - (5) 日本学術会議会長から照会のあった「研究の現場において研究を進める上で支障になっている事項」についての回答について報告された。類似の案件について組織的・継続的に対応を図る必要があることから、今後は杉浦副会長が他学会等との連携の一環として対応することとした。
  - (6) AOCRP-3 の準備状況について報告された。
  - (7) 入退会について承認された。(6月2日付)  
入会：(正 会 員) 3名  
(正学生会員) 1名  
退会：(正 会 員) 1名
  - (8) 編集委員会の活動状況について、報告原稿料・査読謝礼の著者への送付に係る調査結果、海外との学会誌の発送・受領状況、インパクトファクターの具体的取得方法検討開始状況、海外からの論文募集の検討状況、電子アーカイブ

- 
- ブで記事・論文を公開する際の個人情報に対する対処方針について報告があった。原稿料・査読謝礼について、これまでの運用を継続すること、これに合わせて謝礼規則を改訂すること、送付については過去分も含め編集委員会から行うことを承認した。また、電子アーカイブによる個人情報公開については、今後については著作権譲渡時に合わせて承諾を得ることとし、過去分についてはHP上で公開を周知すると同時に異議を受け付けることとした。
- (9) 企画委員会の活動状況について、放射線管理学会との共催事業に関する打合せ結果について報告された。
  - (10) 国際対応委員会の活動状況について、IAEA BSS ver.2.0への対応状況、第43回研究発表会に中国がビザ発給の遅れから出席できなくなったこと、IARR 理事会議(5月18日、ソウル)で第15回ICRRの日本誘致が承認されたことが報告された。
  - (11) 放射線防護標準化委員会の活動状況について報告された。
  - (12) 大学等教員協議会、学友会の活動状況について報告された。学友会においては、12月頃、神戸にて学生発表会の開催を計画している。
  - (13) 広報関係の活動状況について、学会HPの更新状況、広報支援組織の立ち上げについて報告され、今後HP更新が遅れているページ(特に英語版)の支援をすることとした。
  - (14) 前回理事会の結果を踏まえ調整した平成21年度の収支予算案について報告され、確認した。
  - (15) 若手研究会の活動状況について、荻野理事より平成21年度予算の見直し結果、第4回若手勉強会の実施状況、広報支援体制の設置等について報告された。

以下メーリング理事会

- (16) 入退会について承認された。 [メーリング理事会 H21-06](6月18日付)
  - 入会：(団体会員) 1団体
  - (正会員) 9名
  - 退会：(正会員) 1名
- (17) 放射線防護標準化委員会の新規委員追加について承認された。 [メーリング理事会 H21-07](6月18日付)
- (18) 入退会について承認された。 [メーリング理事会 H21-08](7月6日付)
  - 入会：(正会員) 1名
  - 退会：(正会員) 2名
- (19) 退会について承認された [メーリング理事会 H21-09](7月9日付)
  - 退会：(正会員) 1名
- (20) 入退会について承認された [メーリング理事会 H21-10](7月23日付)
  - 入会：(正会員) 2名
  - 退会：(団体会員) 2団体
- (21) 放射線利用振興協会より依頼のあった「第13回放射線プロセスシンポジウム」の協賛依頼について承認された。 [メーリング理事会 H21-11](8月24日付)
- (22) 入退会について承認された [メーリング理事会 H21-12](8月28日付)
  - 入会：(正会員) 1名
  - 退会：(正学生会員) 1名

(原技協 猪俣 一朗)

## 企画委員会報告

### 平成21年度 第2回 企画委員会 議事録

1. 日時：平成21年8月21日(金) 13:30~17:15
2. 場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター
3. 出席者  
百瀬(委員長)、太田、川浦、伴、林、南、山崎、細田、中田(幹事)  
傍聴：猪俣(総務理事)
4. 議題
  - (1) 平成21年度第1回議事録確認
  - (2) 理事会報告
  - (3) 研究会活動報告

- ・ラドン測定標準化専門研究会
- ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会
- ・医療放射線リスク専門研究会

- (4) 新規専門研究会について
- (5) 企画行事について
- (6) 広報報告
- (7) インターネット Gr.報告
- (8) その他

配布資料

- 2-1 第1回企画委員会 議事録(案)
- 2-2 平成21年度第3回日本保健物理学会理事会議事録(案)
- 2-3-1 ラドン標準化専門研究会の今年度の取り組みについて
- 2-3-2 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告
- 2-4-1 放射線教育の推進支援に関する専門研究会設置依頼
- 2-4-2 ラドンの防護規準に関する専門研究会設置依頼
- 2-5-1 保物セミナー2009の主催団体依頼について
- 2-5-2 保物セミナー2009について
- 2-3 日本保健物理学会 総会委任状に係る電子投票について
- 2-4 インターネットグループ(IG)の活動について

参考資料

- 2-1 平成21年度 日本保健物理学会企画委員会名簿(H21.8.21改訂版)

5. 議事

- (1) 第1回企画委員会議事録確認

資料2-1に基づき、前回会合の議事録を確認し了承された。

- (2) 理事会報告

資料2-2に基づき理事会での議事・報告事項を確認した。

- (3) 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から資料2-3-1及び2-3-2に基づき以下のように報告があった。

- ・ラドン測定標準化専門研究会では、報告書作成を中心に活動を進めている。その他の活動として、7月にIECドラフトにコメント、6月末から7月上旬にかけて比較試験を実施し、現在データのとりまとめを行っている等の活動をしている。次回は、9月11日に第3回会合を開催予定である。
- ・医療放射線リスク専門研究会では、6月に研究発表会に合わせ会合を開催し、報告書の枠組みを確認した。また、その際にリスク論とサイエンスをしっかりと区別して記載していく、報告書は、日本語版と英語版の2つを作成し、成果を海外にも広くアピールできるようにすることを確認した旨の報告があった。
- ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会では6月3日に連絡会を開催し、本専門研究会の現状把握と方向性について主に話し合いを行い、その中で、これまでの議論の内容をまとめる形で中間報告的に保物誌に記事を投稿することを決定した。

(詳細はNewsletter各専門委員会報告を参照)。

- (4) 新規専門研究会について

資料2-4-1, -2に基づき、新規専門研究会について検討した。

- ・放射線教育の推進支援に関する専門研究会については、設置の必要性は認めるが、方法、範囲等について企画委員会内でのコメントに基づき設置依頼書を修正し、MLで確認の上、理事会に付議することとした。なお、活動期間は、平成21年度～22年度とする。
- ・ラドン防護規準に関する専門研究会については、設置の必要性を認め、設置依頼書の修正後理事会に付議することとした。なお、活動期間は、平成21年度～22年度とする。

- (5) 企画行事について

資料2-5-1, -2に基づき今年度の保物セミナーについての対応状況及びプログラム案等が確認された。今年度は平成21年10月29日～30日大阪科学技術センター大ホールで開催される。

- (6) 日本保健物理学会 総会委任状に係る電子投票について

広報担当から資料2-6に基づき、総会の委任状について電子投票を検討している旨の報告があった。

- (7) インターネットグループ報告

---

Newsletter No.55 は、9 月を目途に発行することとした。

実際の ML 登録者と ML 登録の希望確認した名簿で不整合がある。不整合になっている会員に意向確認のメールを送付し、修正する。

ML 登録者数を増やすことを目的に、学会入会時のデータにメールアドレスを記載しているが、ML に登録していない会員に対して、保物事務局から登録依頼メールを送付することとした。

(8) その他

保物学会 ML に投稿されている特定の講習会の案内等の営利目的のメールは、除外すべきとの指摘を学会のメールアドレスを通じて受信した。企画委員会で最近の投稿内容を検討した結果、本件は、法定講習の案内であり、公益性及び会員の利便性から考えて問題ないことが確認された。今後も ML に投稿されたメールで疑義が生じた場合は、個別案件毎に確認していくことで了承された。

次回の会合は、11月頃を予定し調整する。

(企画委員会 原子力機構 中田 陽)

## 編集委員会報告

### 平成21年度 第2回 編集委員会 議事録

1. 日時：平成21年6月12日(金) 13:30～17:30
  2. 場所：電力中央研究所(大手町)第4会議室
  3. 出席：服部(委員長)、佐々木(幹事)、安岡(担当理事)、横山、真田、中野、三枝、石森、森泉、西浦、林、古田、山口、大倉(若手)、笠原(事務局)
  4. 議題
    - (1) 前回議事録の確認
    - (2) 謝礼及び覚書の確認
    - (3) 電子ジャーナルの進捗状況と個人情報の取扱いに係る確認
    - (4) 査読に係る確認
    - (5) RP in the Worldに係る検討
    - (6) 転載に係る検討
    - (7) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る検討
    - (8) 各パート進捗状況の確認
    - (9) 44-2, 44-3 編集進捗状況の確認、論文審査状況の確認
    - (10) 学会誌の海外送付先の確認
    - (11) 査読委員の選定の確認
    - (12) その他
- 配布資料
- 2-1 2009年度第1回編集委員会議事録(案)
  - 2-2-1 謝礼の取り扱いに関する資料
  - 2-2-2 覚書
  - 2-3-1 電子ジャーナルに関する資料 その1
  - 2-3-2 電子ジャーナルに関する資料 その2
  - 2-3-3 電子ジャーナル化の打合せ議事録(案)
  - 2-3-4 各電子ジャーナルの整理
  - 2-3-5 CiNii 利用方法に係る周知資料
  - 2-4-1 査読の流れ
  - 2-4-2 保健物理投稿区分
  - 2-4-3 論文査読ガイドライン
  - 2-4-4 保健物理編集スケジュール
  - 2-5 RP in the world 検討資料
  - 2-6 転載に係る資料
  - 2-7-1 企画記事提案方法に関する資料
  - 2-7-2 企画記事分担表

- 
- 2-7-3 J to W 及び巻頭言のリスト
  - 2-8-1 A パート進捗状況
  - 2-8-2 B パート進捗状況
  - 2-8-3 C パート進捗状況
  - 2-8-4 若手記事の提案
  - 2-9 44-2, 44-3 号編集状況・論文審査状況
  - 2-10-1 寄贈先リスト
  - 2-10-2 保健物理海外発送ラベル  
参考資料
    - 2-1 編集委員名簿
    - 2-2 査読委員リスト
    - 2-3 編集委員, 査読委員の専門分野
    - 2-4 「保健物理」投稿規則・「保健物理」投稿の手引き・Instruction to Authors
    - 2-5 電子ジャーナルの個人情報に係る資料
    - 2-6 査読及び依頼原稿執筆の謝礼に関する資料
5. 議事
- (1) 前回議事録の確認  
平成 20 年度第 4 回及び平成 21 年度第 1 回編集委員会合同委員会の議事録(案)が承認された。
  - (2) 謝礼及び覚書の確認  
査読及び依頼原稿への謝礼に関する取り扱いについて確認され、これまでの経緯、新しい謝礼規則に準じた運用とすることが確認された。また、覚書全般に関する確認も行なわれ、今後、転載及び出典の取り扱いについて追加することになった。
  - (3) 電子ジャーナルの進捗状況と個人情報の取り扱いに係る確認  
CiNii, Journal@rchive 及びメディカルオンラインの各電子ジャーナルに係る進捗状況等について整理した。個人情報の取扱いについて確認し、会員に周知することが報告された。
  - (4) 査読に係る確認  
査読全体の流れについて確認された。ある査読委員に同時期に査読が集中することを避けるため、編集事務局が担当編集委員に必要に応じて助言することが確認された。
  - (5) RP in the World に係る検討  
RP in the World の記事について、国際対応委員会と連携し、組織で依頼された記事と、様々な国際的枠組みでの最新情報の概要版を集約した記事を掲載する方針が確認された。
  - (6) 転載に係る検討  
転載の取り扱いについて、安岡委員より説明があった。転載については原則著者に責任があることから、担当編集委員及び編集事務局がサポートすることが確認された。
  - (7) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る検討  
企画記事の提案の流れについて確認された。
  - (8) 各パート進捗状況  
44-2 号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より報告された。
  - (9) 44-2, 44-3 編集進捗状況の確認, 論文審査状況  
編集事務局より、同号の編集状況, 論文審査状況について報告され、確認した。
  - (10) その他  
次回の会合は、平成 21 年 9 月 15 日(火)13 時 30 分から、大手町で開催されることとなった。  
(編集委員会幹事 電中研 佐々木 道也)

## 国際対応委員会報告

### 平成 21 年度 第 1 回 国際対応委員会 議事録

1. 日時：2009 年 8 月 21 日 13:30～17:00
2. 場所：大手町ビル 7F 電中研本部第 3 会議室
3. 出席：酒井委員長(放医研), 服部副委員長(電中研), 加藤(JAEA), 佐藤(東電), 竹安(JAEA), 橋本(JAEA), 山外(JAEA),

---

---

伊知地(幹事：電中研)

オブザーバー参加：米原(放医研)

#### 4. 議 題

##### (1) 今期国際対応委員会の体制と活動方針

酒井委員長より、今期国際対応委員会の体制と活動方針が報告された。活動方針の主な柱は以下の4項目。

- ・ 国際動向の把握と対応、
- ・ IRPA 対応、
- ・ 国際連携の強化、
- ・ 国際連携活動の成果の会員への発信。

##### (2) IAEA BSS ドラフトへのコメント

伊知地幹事より、国際対応委員会から提出した BSS Draft 2.0 へのコメントを紹介した。コメントは文部科学省の国内 RA SSC 会合経由、及び保物学会から IRPA を通じて IAEA へ提出済み。

##### (3) IAEA における BSS 改訂検討の現状について(放医研・米原)

米原氏より第26回 RASSC 会合の報告があり、主な改訂事項が紹介された。主な検討内容は、安全とセキュリティの整合性を図る、Graded approach の適用が適切に行われるように再確認する、ラドンの被ばくが計画被ばくになるのではないかなどという指摘があり検討されている、など。

今後 BSS は新フォーマットでの記述となり、主体(政府、規制当局、事業者など)ごとにそれぞれの要件を列挙し、それに続いて補足的に、解説的記述を加える方式となる。

次回 RASSC 会合が 2009 年 11 月 16-20 日に開催されるが、新ドラフトはこの 6 週間前に公開し、2 週間前までにコメント締め切りという予定である。

##### (4) 日中韓連携

服部副委員長より、これまでに日本、中国、韓国と締結した覚書及び締結内容の紹介があった。AOCRP は 4 年に 1 回の開催であるが、AOCRP と重ならない年に 2 年に一回開催されている国際会議 ISORD を中国、韓国以外のアジアの国との連携を深めるのに活用したいとの報告があった。保物の国際連携のために ISORD を活用することに関しては、ISORD の世話役の中村尚司東北大学名誉教授にも了解が得られている。

過去の各国との連携の記録が整理されていないので、酒井委員長と伊知地幹事とで整理することとなった。

##### (5) IRPA への協力

最近 IRPA の活動が盛んであり、適宜情報を入れて国際対応委員会メンバーには協力を要請する。

来年東京で開催される AOCRP は IRPA の regional 会議であり、保物学会としても協力をしていく。

##### (6) 第 5 回 OECD/NEA CRPPH アジア会合における発表について

“Views from Japanese Academic Society on the Implementation of the 2007 Recommendations～Focusing on the optimization process using dose constraints”

服部副委員長より、当日発表予定の論点の整理について紹介があった。職業被ばくは設計のときと運用のときの線量拘束値について分けて記述した方がよいというコメントがあり、修正することとなった。事務局への提出が 8/26(水)であるため、8/24 の週早々に発表用ファイルを作成し、国際対応委員会メンバーへ送付しコメントを受け、最終版を作成する。

山外氏より若手の人材育成に関して、若手研からの発表内容の紹介があった。NEA の下に若手のための国際的なコミュニティを作ってほしいというように訴えてはどうかという意見があり、検討することとなった。また発表ファイルには、保物若手研からの意見ということであるため JHPS のロゴを入れてほしいとのコメントがあり、JHPS のロゴを入れることとなった。

##### (7) その他

服部副委員長から保健物理編集委員長の立場で、世界の放射線防護の現状を紹介する”Radiation Protection in the World”のコーナーを保健物理学会誌に新たに作成することが紹介され、投稿の勧誘に関して国際対応委員会メンバーにも協力をお願いしたいとの要請があった。

(放医研 酒井 一夫)

## 放射線防護標準化委員会

### 平成 21 年度 第 7 回 放射線防護標準化委員会 議事録

1. 日時：平成 21 年 6 月 3 日(水) 12:00～13:00
2. 場所：シェラトン都ホテル大阪会議室(竹の間)
3. 出席者：小佐古(委員長)、飯田、金子(副委員長)、飯本、山本、橋本、鈴木、



田中(幹事), 下, 飯塚, 米原, 渡辺, 近江, 白木, 河田, 猪俣, 吉田,  
中居(委員), 西藤, 小池, 荻野(委員代理),

#### 配布資料

- 7-1 日本保健物理学会 第6回放射線防護標準化委員会 議事録(案)
- 7-2 幹事会活動報告
- 7-3 「日本保健物理学会—現存する被ばく状況に関する防護の安全規準(案)等」の委員による投票から、公衆審査を経て標準として制定された経緯報告
- 7-4-1 放射線防護標準化委員会平成21年度活動計画と予算案
- 7-4-2 平成21年度予算案(別紙1)
- 7-4-3 平成21年度予算案(別紙2)
- 7-5 幹事の役割
- 7-6 放射線防護標準化委員会の運営に関する細則の改正案
- 7-7 重要な概念解説書作成メンバー
- 7-8 「表面汚染に関する防護のガイドライン」の作成活動の方向性
- 7-9-1 廃棄物作業会(仮称)の検討枠組のイメージ図(素案)
- 7-9-2 保物学会・標準化委員会・廃棄物作業会(仮称)メンバー

#### 4. 議事概要

- (1) 平成21年度活動計画と予算について  
資料7-4-1, -2, -3について審議され、
  - ・活動計画に重要な概念の解説書の改訂作業の項目を加える。
  - ・学会の財政基盤の確立に向け、将来的には、標準の冊子有料配布、有料冊子を使った講習会などを行うことも検討して行くことが提案された。
- (2) 幹事の役割について  
各幹事の任務が確認された。それぞれの幹事の任務は以下のとおり。
  - ・幹事長:飯本幹事, 副幹事長:田中幹事, 広報渉外:杉浦幹事, 企画調査:山本幹事,
  - ・総務・人事:橋本幹事, 事務:鈴木幹事
- (3) 標準化委員会の運営に関する細則の改正案について  
資料7-6に沿って幹事から改正点の説明があり、改正の賛否を問うメール投票を実施することとなった。
- (4) 重要な概念の解説書の改訂について  
重要な概念の解説書の改訂について資料7-7に基づいて検討され、作業をはじめることとした。
- (5) 「ウランの防護に関するガイドライン」の作成活動について  
作成活動について、以下の報告がされた。
  - ・今まで、ウラン廃棄物に関して防護のガイドラインを策定するための準備を進めてきたが、ウランに限定せず、廃棄物全体を視野に入れる、
  - ・計画された被ばくと現存する被ばくの境界からスタートさせ、IAEA がまとめた廃棄物等の基準を十分に参考として、何を行うかを明確にする、
  - ・廃棄物作業会(仮称)をスタートさせる、
  - ・作業会のメンバー構成、  
が承認された。
- (6) 「表面汚染に関する防護のガイドライン」の作成活動について  
今後の活動として、
  - ・アンケートの調査対象に加工メーカーを加える、
  - ・関連する既存の概念と現行持ち出し基準との問題点について整理し、基準が持つ裕度を明らかにする。
  - ・ガイドライン案をまとめる、  
との報告があった。また、作業会の活動状況を学会誌へ投稿することとした。

#### 第26回幹事会

1. 日時:平成21年5月14日(木) 11:00~13:00
2. 場所:東京大学工学部12号館219号会議室
3. 出席者:小佐古(委員長), 服部, 猪俣(理事), 飯本, 山本, 橋本, 田中, 鈴木(幹事),

---

---

佐藤(オブザーバー)

#### 4. 議事概要

- (1) 放射線防護標準化委員会運営規則・細則の改正案について  
運営規則ならびに運営細則の改正案が検討された。その結果、運営細則に関する以下の事項の改正を標準化委員会で審議することとした。
  - ・ 標準化委員会の任務、標準制定に関する任務の修正
  - ・ 投票結果の意見付きでない反対・保留の取扱い
  - ・ 標準の編集上の修正、誤記及び誤植の取扱い
  - ・ 記録の保存方法について
- (2) 幹事の任務について  
今まで各幹事の任務が明確でなかったので、運営規則・細則に基づき明確にした。
- (3) 重要な概念の解説書の改訂と執筆分担について  
解説書の執筆は、標準化委員会委員や外部の能力のある人たちに執筆をお願いすることとし、各概念の取り纏め役と執筆者を幹事が調整することとした。また、作業の終了は平成21年12月末日までを目途とすることとした。
- (4) 第7回放射線防護標準化委員会議題について  
議題を次のように決めた。
  - ・ 放射線防護標準化委員会21年度活動計画と予算
  - ・ 幹事の役割分担について
  - ・ 標準化委員会細則の改正について
  - ・ 重要な概念解説書アップデート執筆分担について
  - ・ 「表面汚染に関する防護のガイドライン」、「ウランの防護に関するガイドライン」の作成活動の方向性について
- (5) 表面汚染ガイドラインに関する論点と検討の概要  
作業会の作業状況、特に管理区域からの持ち出し物品事例調査表について報告された。学会誌に
  - ・ 管理区域からの物品持ち出しの問題点、
  - ・ その問題点へ対応するための提案、の記事を2回に分けて掲載することが提案された。
- (6) 日本保健物理学会平成21年度収支予算案について  
放射線防護標準化委員会の予算は会議資料代35,000円がカットされ、ほぼ提案通り認められた。また、今まで支給対象でなかった専門部会準備会の旅費が認められた。

#### 第27回幹事会

1. 日時：平成21年7月7日(火) 17:00~19:50
2. 場所：東新ビル105会議室
3. 出席者：小佐古(委員長)、飯本、橋本、鈴木、田中(幹事)、山本、河田(委員)、平(オブザーバー)
4. 議事概要
  - (1) 重要な概念の解説書について  
解説書には、数個の例題を記載。全体のトーンを調整するため改訂作業前に取りまとめ役に十分に説明することとした。
  - (2) 現存する被ばく状況に関する防護の安全規準の参考資料について  
NORM・航空機ガイドラインについては改めて作成する必要はなく、それぞれのガイドラインのエッセンスを使う。ラドンに関する防護のガイドラインの解説書の内、ウラン廃棄物処分場の参考資料は、廃棄物作業会(仮称)で行う。他の参考資料は、企画委員会に新たに専門研究会を設立設置して、その成果を使用する。
  - (3) 作業会の今後の活動と専門部会準備会開催について  
表面汚染は7月末に作業会を開催し、物品持ち出し事例調査の検討を行う。専門部会準備会は、現在作業会で規準案が具体化した時点で開催する。
  - (4) 放射線防護の標準化体系について  
委員長が提案した放射線防護の標準化体系を検討した。今後数回検討した上で標準化体系を決めることとした。
  - (5) 標準の広報活動について  
放射線安全管理学会第8回学術大会(H.21.12.2-4@長崎)で標準化委員会の活動の口頭発表を行う。また、日本保健物理学会第43回研究発表会の放射線標準化委員会セッションの資料を放射線標準化委員会のホームページに載せる。

- (6) 運営細則適用メモの作成について  
事務処理を行っていく上で、運営細則のみではカバーしきれない事象は、幹事会の了承のもと、適用メモを作成し、このメモに基づき、事務処理を行うこととなった。
- (7) 放射線標準化委員会新委員の推薦  
千葉委員の退任に伴い、新委員候補として、林氏((株)日立製作所)を推薦することにした。

## 第28回幹事会

1. 日時：平成21年7月31日(火) 11:30~13:00
2. 場所：東京大学工学部12号館 会議室  
東京大学大学院工学系研究科原子力専攻2階会議室(東海)
3. 出席者：小佐古(委員長), 飯本, 山本, 鈴木(幹事)
4. 議事概要
  - (1) 放射線防護標準体系について  
前回幹事会に引き続き、標準体系について検討した。
  - (2) 作業会の名称について  
現作業会の名称は、表面汚染、廃棄物(仮称)となっている。標準化体系の用語と整合性を取り、表面汚染作業会は、物品搬出基準作業会に、廃棄物(仮称)は仮称を取り廃棄物作業会とすることにした。また、作業会の三役の呼称は作業会により異なるので、次の呼称に統一する。三役呼称：主査・副主査・幹事。
  - (3) 運営細則適用メモの作成について  
投票、個人情報管理に関する適用メモを検討した。
  - (4) ラドンの防護基準に関する専門研究会の設置について  
ラドンの防護基準に関する専門研究会を企画委員会のもとに設置することになった由、飯本幹事より報告があった。

(放射線防護標準化委員会幹事 東京大 飯本 武志)

## 若手研究会

### 活動報告

1. 状況報告  
平成21年度の若手研は、「国際的意識の啓発」を目標の一つとして掲げ、国際的会議への率先した関与を行うなど、その活動の幅を広めています。9月3、4日に開催された第5回放射線防護体系の進展に係るアジア会合(以下、第5回アジア会合)において、若手研の国際化へ向けての第一歩となる企画が実現しました。詳細は第(2)項に示します。
  - (1) 活動実績(平成21年6月以降)
    - (6/3) 第43回研究発表会若手研セッション
    - (7/6) 臨時若手勉強会(第9回主査・幹事会)
    - (7/31) 第10回主査・幹事会(東海)
    - (8/7) 第5回アジア会合事前勉強会(東海)
    - (8/21) 第5回アジア会合事前打ち合わせ(東京)
    - (9/3, 4) 第5回アジア会合  
(若手枠参加者は以下の9名)  
JHPS 若手研究会：山外, 小池, 荻野, 阿部  
若手放射線生物学研究会：今岡, 松本, 前田, 浜田  
アジア留学生：Thiem(東大)
  - (2) 若手研, 世界へ。  
素晴らしく派手なタイトルですが、若手研がついに国際会合への進出を果たしました。9月3、4日にわたり、経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)主催の「Fifth Asian Regional Conference on the Evolution of the System of Radiological Protection」(以下、アジア会合)が開催されました。アジア会合は、ICRP 勧告の意味合いや規制への取り入れについて、アジア地域の各国が合同で議論する場です。世界各国で放射線防護に携わる人材の確保や育成の必要性が認識されつつある中、当会合で「Session 3: Securing and Fostering of younger experts responsible for Radiation Protection」と題したセッションを持たせて頂く事になりました。今回のセッションでは、JHPS の枠を超え、若手放

---

放射線生物学研究会(放射線影響学会関連)のメンバーにも参画頂きました。7月6日と8月21日の2回にわたり両学会若手合同のアジア会合打合せ会を開催いたしました。他学会若手との議論は、保健物理分野、放射線生物分野それぞれの若手の立場を把握し、今後の連携について考えるための良い機会となりました。

9月3、4日に開催されたアジア会合は、国内外110名の放射線防護関係者が集まっておりました。若手企画のセッションでは、技術者の視点、研究者の視点、アジア留学生の視点から人材の確保及び育成に係る講演を行いました。放射線防護分野の人材育成の重要点として、技術者については「経験」、「責任」、「裁量」、「組織目標」などが重要点としてあげられました。研究者については、規制に関する「放射線防護」と、「純粋な科学」との乖離をなくす努力が必要であることが示唆されました。アジア留学生については、アジア各国にとっての日本の重要性、将来的なアジア圏ネットワークの構築の必要性が議論されました。我々の熱意のこもった講演は、関係者に十分伝わり、予想以上に高い評価を得ることができました。本セッションの詳しい様子は、学会誌44-4号(または45-1号)に掲載する予定です。ご期待下さい。

また、本講演の調査にご協力いただいた機関、若手研員そして若手放射線生物学研究会の皆様には厚く御礼申し上げます。



写真1 技術者からの視点(JHPS 若手研究会：山外)



写真2 研究者からの視点(若手放射線生物学研究会：今岡氏)



写真3 アジア留学生からの視点(東大：Thiem氏)



写真4 パネルディスカッションの様子(右端：若手代表：山外)

### (3) 学友会との連携

#### 2. 本年度の活動計画

今後も若手らしい企画を展開し、他学会の若手との連携・協力等含め、活発な活動を行っていく予定です。ご期待下さい。今後も興味深い勉強会をどんどん開催してまいりますので、皆様(特に若手の方歓迎)も是非ご参加ください。

- (10月) 第11回主査・幹事会(東京)
- (10/29, 30) 保物セミナー2009への参加
- (11月) 平成21年度若手セミナー
- (12/17, 18) 第5回若手勉強会(第3回学生発表会)
- (1月) 第12回主査・幹事会(東海)
- (2月) 第6回若手勉強会
- (随時)AOCRP-3若手会員によるセッション企画

#### 3. 科学技術カフェ 2009 開催

若手研員の中村秀仁氏(放医研)が、(財)内藤泰春科学技術振興財団(以下、内藤財団)より平成20年度「内藤泰春記念賞」を頂きました事を機に、内藤財団と放医研の共催によって市民セミナー「科学技術カフェ 2009」が開催されます。

本セミナーでは、市民と研究者・技術者が、御茶菓子片手に話し合う場をご用意致しました。これまで行われてきたセミナーとは異なり、多数のブースを展開し、放射線に関わる科学技術の面白さを、子供から大人の皆さんにわかりやすくご説明致します。

つきまして、皆様にもブースを展開して頂けますよう、ご検討何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本セミナーに関する問い合わせ先

開催日：平成21年12月6日(日)

場 所：きぼーる(千葉市科学館アトリウム)

司会者：東海林克江氏(アナウンサー)

主 催：放医研、内藤財団

後 援：千葉市経済農政局経済部経済振興課

協 力：千葉市科学館

連絡先：科学技術カフェ 2009 事務局(放医研)

E-mail: [teammakamura@nirs.go.jp](mailto:teammakamura@nirs.go.jp)

TEL: 043-206-3467

#### 4. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は39名(平成21年4月1日)です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：山外 功太郎(日本原子力研究開発機構)

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-5933

E-mail：[yamasoto.kotaro@jaea.go.jp](mailto:yamasoto.kotaro@jaea.go.jp)

幹事：荻野 晴之(電力中央研究所)

TEL：03-3480-2111, FAX：03-3480-3564

E-mail：[haruyuki@criepi.denken.or.jp](mailto:haruyuki@criepi.denken.or.jp)

幹事：小池 裕也(東京大学)

TEL：03-5841-2876, FAX：03-5841-3049

## 学友会

### 活動報告

今回は、2009年5月に開催された宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター見学会および6月に開催された日本保健物理学会第43回研究発表会の模様を中心に学友会の活動を報告します。

宇宙航空研究開発機構の見学会には、様々な大学から15名の学友会メンバーが参加しました。この見学会では、一般的な見学コースの見学に加えて、宇宙飛行士健康管理グループの矢部志津先生の講演を組み込んでいただきました。講演の内容は、近年放射線防護の分野で注目されている「宇宙飛行士の被ばく管理」でした。学友会メンバーの中には宇宙放射線に関する研究をしている者もあり、講演の後はスペースシャトルの外壁の遮蔽能力や船外活動時の防護等についてディスカッションが展開されました。

第43回研究発表会では学友会セッションを企画し、「教員が望む学生、学生が望む教員」というテーマでグループ討論を実施しました。参加者は大学教員8名、学生14名、その他2名の計24名であり、これらの参加者が4つのグループに分かれ、およそ40分間にわたり活発な議論を繰り広げました。議論の具体的な内容は学会誌「保健物理44巻3号 話題」に掲載を予定しているのので、そちらを参照してください。

この他にも、第43回研究発表会の翌日に大型放射光施設であるSPring-8の見学会を開催しました。現在、2009年12月に開催予定の第3回日本保健物理学会学生発表会に向けて準備を進めています。



写真1 JAXAにて



写真2 学友会セッションの様様

(東京大 谷 幸太郎)

---



---

## 専門研究会報告

### 医療放射線リスク

6月2日に大阪で第3回の会合を開催した。会合では、欧州を中心に展開されている医療被ばくの疫学研究について、最近の動向を確認した。また、100 mSv以下の放射線リスクに対する主要国際機関(ICRP, UNSCEAR, BEIR-VII)の見解について、それぞれが依拠するエビデンスを比較点検し、低線量放射線リスクに関する理解の現状を整理した。専門研究会の成果のまとめ方についても議論し、科学的知見とリスク論を明確に分けることを再確認するとともに、主たるメッセージとして医療関係者に何を伝えるべきか、様々な視点から意見を交換した。

第43回研究発表会では、これまで進めてきた文献レビューの内容を中心に、本専門研究会の活動に関するポスター発表を行った。

[構成メンバー] 甲斐 倫明(大分看科大：主査)、太田 勝正(名大)、小野 孝二(大分三重病院)、酒井 一夫(放医研)、長谷川 隆幸(東海大大磯病院)、伴 信彦(大分看科大：幹事)、福士 政広(首都大)、吉永 信治(放医研)

(大分看科大 伴 信彦)

### 放射線安全新パラダイム

6月3日、大阪での保物発表会開催に合わせて、近況報告や意見交換の場として1時間程度の連絡会を開催した。この連絡会では、本専門研究会の現状把握と方向性について主に話し合いを行い、その中で、これまでの議論の内容をまとめる形で中間報告的に記事を投稿することを決定した。

投稿先は保物誌を予定している(投稿時期は12月号を目標)。

また、シンポジウムに関しては、開催時期は未定だが、会合での話題提供者を演者として話題をふくらすことを目的とした内容を考えている。

(東京大 阿部 琢也)

### 新規専門研究会のお知らせ

平成21-22年度の専門研究会の募集を継続したところ、応募のあった下記の専門研究会の設置が9月7日開催の理事会で承認されましたのでお知らせいたします。なお、設置目的や活動内容につきましては学会ホームページの以下のURLに掲載しましたのでご参照ください。本専門研究会へのメンバー希望などのお問い合わせは10月30日までに各幹事または、企画委員会百瀬(momose.takumaro@jaea.go.jp, 029-282-7472(直通))へお願いします。

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/spec\\_education/spec\\_education.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/spec_education/spec_education.pdf) ⇒ 放射線教育の推進支援に関する専門研究会

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/spec\\_m\\_protection\\_std/spec\\_m\\_protection\\_std.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/spec_m_protection_std/spec_m_protection_std.pdf) ⇒ ラドンの防護規準に関する専門研究会

〈新規専門研究会〉

- ・ 放射線教育の推進支援に関する専門研究会  
主査：専門研究会委員から選出予定  
幹事：宮川 俊晴(日本原燃) toshiharu.miyakawa@jnfl.co.jp
- ・ ラドンの防護規準に関する専門研究会  
主査：飯田 孝夫(元名古屋大学)  
幹事：細田 正洋(放医研) m\_hosoda@nirs.go.jp

(企画委員長 原子力機構 百瀬 琢磨)

## 学会掲示板

### AOCR-3 からのお知らせ

2010年5月24日～28日に開催されます「第3回アジア・オセアニア放射線防護会議(AOCR-3)」の参加登録およびAbstractの受付をホームページにて開始しました。

また、一般発表であるポスター発表やProceedingは日本語でも受け付けます(Proceedingの受付開始は10月1日の予定です)。

なお本会議は、2010年度の学会研究発表会も兼ねており、会議3日目の26日には総会も開催されます。是非ご参

---

加下させていただきますようお願い致します。詳細についてはホームページをご確認下さい。<http://www.aocrp-3.org/>,  
[http://www.aocrp-3.org/j\\_home.html](http://www.aocrp-3.org/j_home.html)(日本語版)

大会準備の状況は以下の通りです。

1. 国際委員会  
International Congress Council (ICC) および International Academic Advisors (IAA)
  - ・ 口頭発表の講師および登壇者を依頼し、現在調整中。
  - ・ リフレッシュコースの講師を依頼し、現在調整中。
  - ・ 展示および広告を依頼。現在各国にて調整中。
  - ・ 学生セッションへの学生派遣を依頼。現在各国にて調整中。
2. 国内委員会
  - ・ Congress Organizing Committee (COC)
  - ・ 第3回会合 平成20年7月8日開催
3. プログラム委員会
  - ・ 口頭発表枠の12のキーワード毎に担当者を決定。
  - ・ 発表内容および登壇者案を作成し、登壇者への依頼を開始(現在調整中)。
4. フィナンシャル委員会
  - ・ 協賛金, 展示, 広告の依頼

(大会長・実行委員会委員長 東京大 小佐古 敏荘)  
(大会事務局長 東京大 飯本 武志)

### 第1回 自然放射線被ばく研究ネットワークの構築に関する国際会合開催のお知らせ

独立行政法人 放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター 防護技術部では、本年度より3ヵ年のプロジェクト研究「自然放射線被ばく研究ネットワークの構築」(代表者: 酒井一夫)を立ち上げました。この研究は科学技術振興調整費によって実施されるものであり、アジア主要国(中国・韓国・タイ・インド)とのネットワークを構築し、自然放射線源による被ばく線量を標準化された手法を用いて評価することを目的としております。

そこで、本プロジェクトにおいて「第1回 自然放射線被ばく研究ネットワークの構築に関する国際会合」を平成21年10月5日から7日にかけて開催する事となりました。本プロジェクトの内容は保健物理学の分野にとっても重要な課題のひとつであると認識しており、プロジェクトのメンバーのみではなく、広く貴学会の会員の皆様にも参加して頂きたいと考えております。

日時: 平成21年10月5日(月)13時30分～7日(水)15時30分

場所: 放射線医学総合研究所 講堂

〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

043-206-3111(環境放射能調査支援室)

後援: 日本保健物理学会

プログラムなどの詳細はメールリストで配信予定。なお、参加者数の把握のため事前登録をお願いいたします。

問い合わせ先: 放射線医学総合研究所 防護技術部

床次眞司 ([tokonami@nirs.go.jp](mailto:tokonami@nirs.go.jp)), 反町篤行 ([sorimac@nirs.go.jp](mailto:sorimac@nirs.go.jp))

(放医研 床次 眞司)

### 臨時委員会「放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討委員会」設置のお知らせ

放射線医学総合研究所, 日本原子力研究開発機構, 日本原燃から学会長宛に「放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する要望書」が提出されました。これを受けて平成21年9月7日の理事会において、保健物理学会臨時委員会運営規則に基づき臨時委員会を設置し、学会としての対応を諮問することが決定されました。この臨時委員会はキレート剤等の放射性物質による体内汚染の除去剤に係る国内外の情報を収集検討し、学会としての見解及び対応案をまとめ理事会へ報告することを目的としています。活動の期間は2ヶ月程度で活動に係る予算は特に設けません。委員の構成は以下の通りです。事前に登録した学会員は会合への参加が可能です。会合の案内はメールリスト等を通じて行われます。



- ・委員長：明石 真言(放医研)
- ・幹事：百瀬 琢麿(理事)
- ・委員：石樽 信人(名古屋大学), 岩井 敏(三菱総研), 衣笠 達也(原安協), 栗原 治(JAEA), 神 裕(日本原燃), 福田 俊(放医研), 我妻 真(日本原燃)
- ・問い合わせ先：原子力機構 百瀬 琢麿(momose.takumaro@jaea.go.jp)

(原子力機構 百瀬 琢麿)

### インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・メーリングリスト管理(主査兼務)  
山崎 直(中電)
- ・ホームページ保守  
中野 政尚・吉富 寛・中川 貴博・大倉 毅史(原子力機構)
- ・ニュースレター編集  
鈴木 敦雄(静岡県), 平尾 茂一(名古屋大)

IG 活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容への改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

IG に協力していただける方を募集しています。

### メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月 10 件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局(jhps@iva.jp)まで配信先アドレスを連絡願います。

### メーリングリスト登録者へのお願い

現在、日本保健物理学会事務局において、メーリングリスト登録者の名簿照合を実施しております。一部の方には、確認作業のためにお手数をおかけすることになりますが、よろしくご協力をお願いします。

(IG 主査 中電 山崎 直)

### 学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO 事務センターにお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- |                                     |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1)ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) | 1,777 円(26 部)            |
| 2)ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998)        | 1,700 円(51 部)            |
| 3)高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998)         | 2,000 円(81 部)            |
| 4)自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001)    | 1,700 円(127 部)           |
| 5)人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002)      | 2,000 円(159 部)           |
| 6)放射線の人体への影響 第3版(1986)              | 800 円(会員割引価格, 送料込)(4 部)  |
| 7)放射線の人体への影響 第5版(1992)              | 800 円(会員割引価格, 送料込)(15 部) |

連絡先：日本保健物理学会事務局  
野本, 永瀬

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-2-11  
文献堂ビル 3F

TEL:03-3548-0342 FAX:03-3548-0344

E-mail: [jhps@iva.jp](mailto:jhps@iva.jp)

発行：日本保健物理学会企画委員会  
編集：企画委員会インターネットグループ  
担当：平尾 茂一 (名古屋大)